

情報クリップ

農業情報ピックアップ

行政関連

11/4 生鮮食料品の産地表示で義務付け検討へ 農林水産省

農林水産省は、すべての食料品を対象に原材料などの表示を義務付けるように制度を改正する方針をまとめ、特に、野菜や果物などの生鮮食料品については、消費者の要望が強いことから産地を表示することを義務付ける方向で検討を進めることになった。産地の表示をめぐっては、消費者から商品を選ぶ際に参考にしたという要望が強いことに加えて、国内の食糧自給率について消費者の関心を高めたいというねらいもある。農林水産省では、来年の通常国会に関連する法律の改正案を提出したい考え。(NHK)

11/6 林産・水産物の自由化問題 関税撤廃には応じぬ方針

政府は5日までに、今月中旬にマレーシアで開かれるアジア太平洋経済協力会議(APEC)で焦点になっている林産物・水産物の貿易自由化問題について、現時点では関税の撤廃などの提案には基本的に応じない方針を固めた。(朝日)

11/7 首相が農業従事者と「対話集会」

小淵首相は7日、栃木県高根沢町の農業施設を訪れ、農業従事者らと懇談した。首相が全国各地で行っている国民との「対話集会」の一環で、農村地域で行ったのは初めて。懇談会では「農業の規模を拡大するためにもっと低利な融資制度を導入してほしい」「男女共同参画社会は農村部ではまだまだ進んでいない」といった注文や意見が出された。首相はメモをとりながら熱心に聞き、「融資制度の」制限などではできる限り撤廃して、意欲を持って規模を拡大できる体制を作りたい」と答えた。

(読売)

11/10 有機食品に検査・認証導入 農水省、2000年にも

日本農林規格(JAS)協会の専門委員会は10日、有機食品の適正表示などを定めた検査・認証制度の導入について報告書をまとめ、農水省に提出した。同省は来年の通常国会へ法案を提出、同制度は早ければ2000年春にもスタートする見通し。現在も農水省が有機農産物などの表示ガイドラインを設けているが、強制力がなく、有機質肥料を使っただけで「有機栽培」などと表示する例が目立っている。検査・認証制度の導入後は、基準を満たさない食品に「有機」と表示して消費者向けに流通させると、罰金などの罰則を課せられることになる。同制度の導入で有機食品の信頼度が高まる一方で、高温多湿な日本では農業に頼らざるを得ず、厳しい基準を満たせるのか、との懸念もある。現在、広い意味で有機食品の市場規模は出荷額で約300億円程度とみられるが、実態は農水省もつかんでいない。「有機」などと銘打つ食品の大半は新基準の適用外になりそうだ。(共同)

11/11 食料自給率の目標を50%に 新基本法で全中が要請

全国農業協同組合中央会(全中)は11日の中川昭一農相との意見交換会で、農水省が法案作りを進めている新農業基本法ではカロリーベースの食料自給率の政策目標を少なくとも50%(現在42%)に向上させなくば、などと要請した。新農業基本法に関する政府、与党と農業団体などの調整は最終段階に入っており、全中の強い要望を受けて焦点となっていた自給率の政策目標は50%に落ち着きそうだ。(共同)

11/16 来年からの個別協議ない 農水次官、WTOで

農水省の高木勇樹事務次官は16日の記者会見で、アジア太平洋経済協力会議(APEC)の共同声明を受け、林産、水産物の自由化交渉が世界貿易機関(WTO)の場で1999年から個別で協議されるのではないかと見方に対し「そういうことにはならない」と、否定的な認識を示した。(共同)

11/16 かんがい排水事業で改善求める通達 農水省

全国の20の地区で総額6900億円余りを投じて行われているかんがい排水事業で、ダムの建設など国の事業は終わっているのに下流の田や畑の排水路の整備など都道府県などが行う事業は、計画の3分の1以上が滞んでおらず、事業の効果が十分に上がっていないことが会計検査院の調べでわかった。農林水産省の高木事務次官は、事業の効果を早く上げるために全国の地方農政局に通達を出して改善を求めたことを明らかにした。(NHK)

11/16 表示義務付けが多数 遺伝子組み換え食品の公算意見

農水省は16日、遺伝子組み換え食品の表示の在り方について一般公募した意見の概要を公表した。総数は1万件を超え、「豆腐や豆乳など組み換え遺伝子が含まれている場合に表示を義務付ける」という農水省案への支持が約33%あった。重複分も含める内容「表示を義務付けるべき」とする内容は、合計で約72%に上った。(共同)

11/17 水田小作料6.2%下落 米価などが影響

農業委員会の全国組織、全国農業会議所が17日発表した1997年の

小作料(10a当たり)調査によると、水田は前年比6.2%下落し22、696円、畑も4.0%下落の8、181円と、それぞれ安くなった。97年の豊作で米価や畑作物価格が低迷したほか、構造的な担い手不足で借り手市場になっているため。小作料の下げにもかかわらず米価の下落が激しかったため、コメの売り上げに占める水田の小作料の割合は16.7%と前年より0.5ポイント上昇し、農家の経営を圧迫したという。(共同)

11/4 天候不順で野菜高値 レタスは去年の6倍

野菜や果物で高値が続いている。なかでもレタスは先月下旬の平均価格は去年の6.8倍には上がった。この他は、きゅうりや白菜、ほうれん草、キャベツ、長ねぎなどが特に高くなっている。こうした中、大手のスーパーマーケット・チェーンでは、なべ物に欠かせない長ねぎや白菜を急ぎよ中国や韓国から輸入し始め、関東地方の店舗で、国内産のおよそ半分の値段で売り出した。売れ行きは好調で、来週からは全国の店舗で取り扱う予定。一方、有機栽培の野菜しか使わないことを売り物にしているハンバーガーショップ・チェーンでは、不作のため有機栽培のレタスが確保できなくなり、先月から店内におわびの掲示をしうえで有機栽培でないレタスを使っている。(NHK)

11/11 野菜の緊急輸入を検討 農水省、需要期の12月に

農水省は11日、長雨などの影響で高値が続いている野菜の価格を抑制するため、需要量が増える12月にキャベツなどの野菜を緊急輸入する方向で検討を始めた、と発表した。今

後の価格動向を踏まえて品目と量を
決めるが、高値となっているキャベ
ツ、ハクサイ、レタス、タマネギな
どを対象品目として検討している。
(共同)

11/17 野菜高騰で「浅漬け」業者
が悲鳴
野菜価格の高騰で、野菜を原料と
する浅漬け業界が悲鳴を上げている。
原料の仕入れ価格が、スーパーなど
と事前に契約した商品納入価格を上
回る逆ざや現象が起き、売れば売る
ほど膨らむ赤字の前に、倒産したり、
廃業したりする業者も出てきた。
(読売)

環境関連

11/7 ラップの添加剤溶出の恐れ
業界団体は安全を強調
スーパーなどで広く使われている
業務用の食品包装ラップから、加工
しやすくするために添加されている
可塑剤のアジピン酸エステルが食品
に溶け出す恐れのあることが分かっ
た。アジピン酸エステルは約10種類
が知られており、そのうちの1つは
内分泌かく乱化学物質(環境ホルモ
ン)の疑いがあり環境庁のリストに
も載っているが、今回溶出が確認さ
れたのは別の五種類。厚生省は、ラ
ップに添加される別の可塑剤フタル
酸エステルについて、本年度から動
物実験で環境ホルモン作用があるか
どうか調査を始めており、アジピン
酸エステルについても調査対象に加
えることを検討している。(共同)

テクノロジー

11/2 宇宙で野菜栽培できそう
向井さんの実験で判明
無重力の中でも、電圧や光を利用
すればモヤシ、トウモロコシなどの
根が伸びる向きをコントロールでき
ることが1日、米スペースシャトル

「ディスプレイ」で向井千秋さんら
が行った植物の成長実験で初めて分
かった。植物の根は、地上では重力
が働くのと同じ下向きに伸びるが、
宇宙空間では四方八方に伸びてしま
う。今回、それを人為的に操作でき
ることが確かめられたわけで、将来
宇宙で野菜などを生産する際に役立
ちそうだという。(共同)

11/9 九電が自動野菜工場を開発
2000年の実用化を目指す
九州電力は、野菜の種まきから収
穫、包装までを自動化した野菜工場
の開発に取り組んでいる。既に3月
から佐賀市内で実用レベルの試験工
場を稼働し、サラダ菜の無農薬養液
栽培を続けており、2000年ごろ
までの実用化を目指している。試験
工場は面積約2百平方メートル。種
を植え付ける培地の補充などに従業
員1人が必要だが、工程の9割がオ
ートメーション化されている。栽培
面積千平方メートルで採算が取れる
計算だが、課題は装置全体の安定性。
また、千平方メートル規模で約2億
円の設備費が掛かるため、長期間の
耐久性が求められるが、事前にテス
トする手段はないという。(共同)

11/10 牛乳からクロロニン牛 3頭
妊娠、来春出産予定
雪印乳業受胎卵移植研究所(北海
道苫小牧市)が、ホルスタインの乳
から取り出した乳腺(せん)細胞を
使いクロロニン牛の妊娠に成功、来年
4月に出産予定であることが10日分
かった。牛の耳などから体細胞を切
り取って移植する従来のやり方と違
って牛の体を傷つけないため、細菌
感染などが防げるのが特徴で「出産
が実現すれば世界初」(農水省家畜生
産課)という。(共同)

その他国内

11/7 弥生農耕民の活発な動き明
らかに
東日本最古の弥生大集落と確認さ
れた神奈川県小田原市の中里遺跡か
らは、直線距離で5百キロ以上も離
れた瀬戸内東部・摂津付近の土器が
大量に出土した。これまでの研究で、
弥生時代前期以降、九州北部をはじ
めとする西日本の弥生人が日本海沿
いを転々と青森まで移動し、稲作を
伝えていた事実が確認されていた。
だが、今回の発掘によって、太平洋
ルートでも、「フロンティア」を目
指す農耕集団の活発な動きが明らか
になった。(読売)

11/10 秋田・大湯村減反訴訟 最
高裁で農家側の敗訴確定
秋田県の八郎湯の干拓地に入植し
た農家がコメの減反政策に従わなかつ
たことを理由に国から農地を明け
渡しを求められていた裁判で、最高
裁判所はきょう、国の訴えを認める
判決を言い渡し、農家側の敗訴が確
定した。(NHK)

11/12 増える朝食の欠食、厚生省
国民栄養調査
二十代の男性は2人に1人、三十
代の男性の3人に1人が週に2、3
日以上朝食を抜いており、夕食を取
る時刻も遅くなる傾向にある。厚生
省が実施した1997年の国民栄養
調査で、こんな結果が出た。朝食抜
きの生活が小・中・高校生のところ
から習慣化している人が二十代、三十
代では約3割に達した。朝食を食べ
ない習慣がある人は夕食時刻も不規
則で、「塩分が多い野菜を食べる」
など、夕食内容に偏りがある人の割
合が、朝食を欠かさない人に比べ多
い。特に、二十、三十代の男性の夕
食内容に偏りが目立った。(朝日)

11/16 売上高6割増加 消費税に
高い関心
大手スーパーのイトーヨーカ堂は
16日、今月11日から15日まで北海道
を除く全国で実施した「消費税還元
セール」の売上高が、前年同期に比
べて4.6割増えたと発表した。ジ
ヤスコ、ユニーなど還元セール第一
陣はいずれも売り上げが3.5割伸
び、消費税問題に対する消費者の関
心の高さと価格志向の強さを印象づ
けた。小売業界は不況を背景に売り
上げ不振に直面しているが、今回の
セールはアイデア次第で消費が喚起
できることを実証した。(共同)

11/17 オオカミ放ちシカ害防ごう
日光で森を守るシンボ開催
増え過ぎたシカや猿による農作物
被害を防ぐため「天敵」のオオカミ
を森に放ち増加を抑えようという提
案している日本オオカミ協会が市民団
体と共催で、栃木県日光市でシンボ
ウム「日光の森を守る」鹿害・猿害
とオオカミ」を開催。(共同)

11/18 日商岩井など3社巨額赤字
大手商社の中間決算
大手総合商社9社の今年9月中旬
決算が18日、出そろった。財テク関
連の損失処理や株安による有価証券
評価損を主因に、最終損益段階で日
商岩井、住友商事、丸紅の3社が巨
額の赤字を計上し、トーマン以外の
5社も17.73%の大幅減益に陥る厳
しい決算となった。国内取引、輸出
入のいずれもが国内不況やアジア経
済危機の後遺症で総じて振るわず
、売上高が9社一斉に3.23%減少す
るなど、商社の経営環境悪化が加速。
その一方で最終損益に大きな違いが
出るなど、体力格差が一段と拡大し
ていることを裏付けた。最終損益は
日商岩井が赤字となるほか、前期赤
字だった伊藤忠、丸紅、トーマンが

黒字化、兼松は増益、三菱商事など
4社が減益を見込んでいる。(共同)

海外

11/2 印でタマネギ不足が暴動に
地方選控え政府も苦慮
インドで主食のパン類やコメなど
に次いで大量に消費されるタマネギ
が夏の長雨などの影響で数十年前ぶ
りの不作となり高騰、店頭から姿を消
すなど、庶民を慌てさせている。各
地でタマネギを求める抗議行動や襲
撃事件も発生。(共同)

11/5 ロシアに食糧310万トン
米 過去最大規模の支援へ
クリントン米大統領は4日、声明
を発表し、深刻な食糧危機に直面し
ているロシア救済のため、小麦など
を中心に計310万トン(約5億ド
ル相当)の支援を実施する意向を表
明した。米政府当局者によると、米
国の対口食糧支援としては過去最大
規模となるという。(共同)

11/6 深刻な食糧不足のキューバ
に10億円の人道支援 政府
政府はきょうの閣議で、干ばつな
どの影響で深刻な食糧不足に直面し
ているキューバに対し10億円の人道
支援などを行うことを決めた。キュ
ーバは、いわゆるエルニーニョ現象
などの影響による干ばつで深刻な食
糧不足に陥っていることに加えて、
今年九月のハリケーンで農作物が被
害を受けたため、日本に対して緊急
の援助を要請している。(NHK)

11/7 中国の今年の食糧生産は史
上最高更新へ
中国国家発展計画委員会の鄭新立
スポークスマンは6日、コメ、小麦、
トウモロコシなどの今年の食糧生産
が概算集計で、過去最高だった19
96年の5億454万トンを超える

見通しになった、と明らかにした。これで4年連続の大豊作になる。歴史的な洪水で夏季に収穫する小麦や早場米が減産になったが、秋に収穫するトウモロコシなどがその穴を補った形だ。雨が少ない地域が多雨で作物がよく育ち、全体として増産につながった、とみられる。(朝日)

11/10 EU対口食糧支援で原則合意

欧州連合(EU)は9日、ブリュッセルで外相理事会を開き、ロシア向け食糧援助問題、ポーランドなどEU加盟候補6カ国の加盟に向けた条件整備の進展状況について協議した。対口支援問題をめぐっては、欧州委員会のまとめた食糧支援計画について意見交換、同計画を原則的に支持することで合意した。EU当局者によると、計画では小麦100万トン、牛肉10万15万トン、粉ミルク3万5000トンなど合計4億ECU(欧州通貨単位、約4億7000万ドル)相当の農産物を無償供与する。(時事)

11/10 カーギルが買収へ コンチネンタルの穀物事業

米穀物メジャー、カーギル(本社ミネソタ州)は10日、ライバルのコンチネンタル・グレイン(ニューヨーク州)から穀物事業を買収する方向で交渉していることを確認した。10日付の米紙ウォールストリート・ジャーナルによると、カーギルは年間売上高が51.4億ドル(約6兆3000億円)、コンチネンタルは同一60億ドル(約1兆9600億円)。米国首位と第2位の穀物メジャーの大規模合併となるだけに、実現すれば、世界最大の穀物輸出入業者としてのカーギルの主導的地位が大幅に高まる。ただ、今回の買収は独占禁止法上の問題を引き起こす可能性がある。

(共同)

99年前半 海外展示会情報

- 1月 西部家畜シミュン&ロノナ(NWSS)
 - National Western Stock Show & Rodeo
 - 会場：アメリカ Denver
 - 内容：家畜(牛、馬、鶏、羊)関連
 - 前回入場者数：600,000人
 - 問合せ先：National Western Stock Show & Rodeo, 4655 Humboldt St., Denver, CO80216-2818, U.S.A
- 1/18~23日 トリント・マゴロ展(Le Holland Agro Exhibition)
 - 会場：オランダ Amsterdam
 - 内容：農業、園芸機器設備、トラクタ、種子、苗
 - 前回入場者数：103,124人
 - 問合せ先：Amsterdam RAI, P.O.Box77777, NL-1070 MS Amsterdam, The Netherlands
- 1/19~22日 カナダ国際農業機械資材シミュン(CIES)
 - Canadian International Farm Equipment Show
 - 会場：カナダ Toronto
 - 内容：農業機械、製品、サービス
 - 前回入場者数：55,000人
 - 問合せ先：Dawn Morris Productions Inc, 1434 Chemung Rd., Unit 3, P.R.1 Peterborough, Ontario, K9J 6X2, Canada
- 1/19~23日 アウロメック(AGROMEK)
 - International Trade Fair for Agricultural Mechanization, Cattle and Pigs Breeding

会場：デンマーク Herning

- 内容：穀物・種子の貯蔵、運搬製造
- 前回入場者数：82,666人
- 問合せ先：Messcofer Herning, Exhibition Center Herning, Vardevej 1, DK7400 Herning, Denmark
- 1/20~25日 国際養鶏展(PE)
 - International Poultry Exposition
 - 会場：アメリカ Atlanta
 - 内容：養鶏、鶏卵産産業関連機械設備
 - 前回入場者数：26,000人
 - 問合せ先：U.S. Poultry + Egg Association 1530 Coolidge Rd., Tucker, Georgia 30084, U.S.A
- 1/22~31日 国際グリーンウィーク・ベルリン(GW)
 - International Green Week Berlin
 - 会場：ドイツ Berlin
 - 内容：食品産産業、農林、園芸関連
 - 前回入場者数：426,000人
 - 問合せ先：Messe Berlin GmbH, Messedamm 22, D-14055 Berlin, Germany
- 2月 オランダ球根見本市
 - Westfiese Flora
 - 会場：オランダ Bovenkarspel
 - 内容：オランダ最大の球根市
 - 前回入場者数：85,000人
 - 問合せ先：Stichting Westfiese Flora, P.O.Box23, NL-1610 AA Bovenkarspel, Holland
- 2/2~4日 農業機械シミュン Farm Machinery Show
 - 会場：アイルランド Dublin
 - 内容：酪農、農業機械設備

前回入場者数：15,000人

- 問合せ先：Royal Dublin Society Ballsbridge, Dublin 4, Ireland
- 2/6~11日 マダガスカル・アクション(Agri Action)
 - California Farm Equipment Show and International Exposition
 - 会場：アメリカ Tulare
 - 内容：農業化学、コンピューター、機械、機器製品
 - 問合せ先：International Agri-Center Inc, P.O.Box1475, Tulare, CA93275-1475, U.S.A
- 2/19~21日 園芸、切り花、装飾植物・グリーンシミュン(MIFOR)
 - International Trade Show of Cut Flower and Ornamental Plant Production, Horticultural Equipment and Accessories
 - 会場：イタリア Milano
 - 内容：切り花、鑑賞用植物、園芸機器
 - 前回入場者数：30,832人
 - 問合せ先：Publifere Sd Via Foppa 7, 20144 Milano, Italy
- 2/20~22日 西部農業シミュン(WFS)
 - Western Farm Show
 - 会場：アメリカ Kansas City
 - 内容：農業関連製品、機械、機器
 - 前回入場者数：40,000人
 - 問合せ先：Western Association 638 West 39th St., P.O.Box419264, Kansas City, MO64141, U.S.A
- 2/28~3/4日 国際ハンコンシミュン

ネス・シヨウ(SINIA)

- The International AgriBusiness Show
- 会場：フランス Paris
- 内容：農業機械、機器
- 前回入場者数：160,947人
- 問合せ先：EXPOSINIA S.A., 1 Rue de Pare, 92583 Levallois-Perret Cedex, France
- 4/23~5/3日 環境、ガーデン・フラワー展示会
 - Vivere nel Verde
 - 会場：イタリア Torino
 - 内容：屋内屋外植物、種、花、園用機器、機械
 - 前回入場者数：30,000人
 - 問合せ先：Ferrinpresa S.r.l. Via G. Bruno, 116, Torino, Italy
- 5/3~6日 アグリテック(AGRITEC)
 - International Agricultural Exhibition
 - 会場：イスラエル Tel Aviv
 - 内容：灌漑、水処理、管理、グリーンハウス
 - 前回入場者数：120,000人
 - 問合せ先：Israel Export Institute, P.O.Box5081, 68125, Tel Aviv, Israel
- 9/24~27日 王立ハイランド・シミュン(RHS)
 - Royal Highland Show
 - 会場：英国 Edinburgh
 - 内容：農業、食品、花、林業
 - 前回入場者数：149,601人
 - 問合せ先：The Royal Highland and Agricultural Society of Scotland, The Royal Highland Centre, Ingliston, Edinburgh, EH28 8NF, U.K